

指定管理者による公の施設の管理運営状況

令和6（2024）年度

施設名	栃木県とちぎわんぱく公園
施設所管課	県土整備部都市整備課
指定管理者	とちぎわんぱく公園指定管理グループ ・公益財団法人栃木県民公園福祉協会（法人番号9060005007605） ・栃木県公園事業協同組合（法人番号5060005007682） ・株式会社MUNI（法人番号5060001035175）
指定期間	令和6（2024）年4月1日～令和11（2029）年3月31日

1 施設の概要

施設所在地	下都賀郡壬生町大字国谷2273
施設の概要	①指定管理者による管理面積 37.2ha ②主要な施設 ふしげの船、こどもの城、ばなばなのまち、なかよし農園、カヌーの家、虹の広場、たぬきのめいろ、はてなの広場、夢花壇、冒険の湖、トンボの池、風の原っぱ、りんご並木 等
業務内容	①公園の維持管理に関する業務 ②有料公園施設の利用の許可に関する業務 ③公園の運営に関する業務

2 収支の状況

令和6（2024）年度

(千円)

収入			支出		
指定管理 ※2	指定管理料	131,964	事業費	19,007	
	利用料金収入	7,351	管理運営費	77,708	
	その他収入※1	1,099	人件費	50,440	
	合計	140,414	その他支出※1	7,962	
	指定管理業務収支差額①	▲14,703	合計	155,117	
自主事業			自主事業		
自主事業収支差額②			103,459		
収支差額（①+②）					
備考（※1 その他収入の主なものを記載） 負担金 779千円			備考（※1 その他支出の主なものを記載） 租税公課 7,962千円		

※2 指定管理業務に係わるもののみ計上する。

令和5（2023）年度（前年度）

(千円)

収入			支出		
指定管理 ※2	指定管理料	125,700	事業費	18,210	
	利用料金収入	5,689	管理運営費	76,204	
	その他収入※1	2,472	人件費	42,757	
	合計	133,861	その他支出※1	7,720	
	指定管理業務収支差額①	▲11,030	合計	144,891	
自主事業			自主事業		
自主事業収支差額②			56,670		
収支差額（①+②）					
備考（※1 その他収入の主なものを記載） エネルギー価格高騰対策支援金 1,531千円			備考（※1 その他支出の主なものを記載） 租税公課 7,720千円		

※2 指定管理業務に係わるもののみ計上する。

3 利用状況

	令和5（2023）年度 (前年度)	令和6（2024）年度
公園利用者	835, 289人	1, 017, 064人

施設名（利用料金施設）	令和5（2023）年度 (前年度)	令和6（2024）年度
ふしぎの船	42, 934人	58, 846人

施設名	令和5（2023）年度 (前年度)	令和6（2024）年度
体験学習施設	催し物回数 (延べ人数) 135回 (11, 586人)	140回 (20, 566人)

4 サービス向上に向けた取組

（1）基本テーマに基づいた管理運営

- ・シンボル花壇である「夢花壇」は、ガーデンデザイナーの設計により、季節感、色合い、品質に重点を置いて修景し、一年を通して花のある空間を提供した。
- ・花畠では、春は約63万本のセントーレア、秋は約25万本のコスモスを咲かせ、季節の花を楽しめるようにした。また、花畠の中央に花見台を設置し、広大な花空間を見渡せるようにした。新たに、花見台の階段に手すりを設置し、利便性も向上させた。
- ・「自然体験」「農業体験」「つくるプログラム」等は、一年を通して体験できるようにし、参加者が四季折々の自然を感じ学べるような内容とした。
- また、参加した子供たちが主体となって実践し、協力し合い喜びや感動を分かち合う活動となるよう取り組んだ。
- ・農業体験で試食会を行い、自ら収穫した作物の味を楽しめるようにした。
- ・農業体験「たんぽくらぶ」を復活し、農業体験の選択肢に幅を持たせ魅力を向上させた。
- ・公園で飼育しているヤギへのエサやり体験を複数回実施し、生き物のぬくもりを感じ生命の大切さを考える機会を提供した。また、新たなふれあい体験として、ヤギの誕生会も実施した。
- ・遠足の思い出づくりとして、「缶バッジづくり」「ヤギの餌やり」「園内クイズラリー」などの平日団体利用者用の体験プログラムを企画提供した。
- ・平日の余暇活動で楽しめるように、「大人の陶芸教室」、「和紙ちぎり絵教室」などを実施した。

（2）利用者満足度を高める管理運営

- ・車椅子、ベビーカー、着替え用の子供服、靴、傘の無料貸出しサービスを実施した。
- ・思いやり駐車場の適正利用を促すため、PRや協力の呼びかけを行った。
- ・感染防止と衛生面に配慮し、手指消毒用アルコールは施設入口などに継続して設置した。
- ・ふしぎの船では、シニア料金の設定やポイントカードの発行、消防団員や高齢免許返納者への割引などにより、シニア層やリピーターが利用しやすいようにした。また、冬季割引料金を設定することにより、冬季の利用促進を図った。
- ・障害者手帳を持参した障害者に対してわんぱくトレインの利用料金の免除を行った。
- ・特別支援学校や特別支援学級の遠足の際、着替え等の場所として、ばなばな工房や作業員控室を貸し出した。
- ・こどもの城の旧レストランを無料休憩所として活用し、屋内で食事（お弁当）がとれるようにした。
- ・新型コロナウィルス感染症の影響で中止していた、「お着物ふおと」を再開した。
- ・人気の農業体験プログラムは、募集開始と同時に電話による申込が殺到し長時間お待ち頂いていたことから、ホームページに専用の募集フォームを作成するとともに、先着順ではなく一定期間募集のうえ抽選とするなど募集方法の改善を図った。
- ・農業体験の広報チラシを新たに作成し、県内の小学校等に配布し広くPRを行った。
- ・自然体験「ブルーベリーを摘もう」は幼児から大人まで幅広い年代に人気が高く、計画を上回る申し込みがあったため、臨時回を設け対応した。
- ・ばなばなのまち広場にガーデンチェアを設置し、より多くの方が休憩できるようにした。

- ・駄菓子屋さんの前にベンチを設置し、購入した商品を楽しみながら休憩できる環境をつくった。
- ・ふしぎの船や一部遊具のキャッシュレス対応化、新紙幣・新硬貨対応の券売機や両替機の導入などにより、利用者の利便性を向上させた。
- ・ふしぎの船のセンサーのふしぎの PC を以前より高性能なモデルに更新することにより、エラー回数を減少させた。
- ・ふしぎの船では、こいのぼり飾り、七夕飾りなど利用者が参加できるイベントを実施した。
- ・公園の自然を感じながらヨガを楽しむ「パークヨガ」を実施した。
- ・ハロウィンイベントやクリスマスマルシェ、新年の書道作品展示、雛段飾りなど季節を感じられるようなイベントを年間を通して開催した。
- ・ピッピの着ぐるみを活用し、ピッピとの「じゃんけん大会」やグリーティングなどを実施した。
- ・動く恐竜たちと出会い、恐竜の時代を「見て」「感じて」「想像」できる「大恐竜パーク」を運営した。また、コラボイベントの開催や発掘体験なども実施し、さらなる魅力向上を図った。
- ・広い園内の移動手段として、また、ゆっくりと風景を楽しめるように、園内を周回する「わんぱくトレイン」を土日祝日に運行した。
- ・12月に虹の広場を電飾で飾るとともに、電飾トレインを走らせるクリスマスイルミネーションを開催して、幻想的な夜の公園を演出した。
- ・土日祝日に「ふわふわスライダー」、「クレヨントランポリン」、「縁日」、「キッズボート」、「ウォーターバルーン」を実施した。
- ・バッテリーカーやラジコンボートなどの小型遊具を設置し、小さい子でも楽しめる遊具を提供した。また、メリーゴーランド等のコイン式電動遊具を新たに導入し、平日でも楽しめる小型遊具を増やした。
- ・土日祝日に軽飲食テント売店やキッチンカーを出店し、利用者の食に対するニーズに応えた。また、「風の原っぱ」や「はてなの広場」、「みどりの丘」にキッチンカーの出店エリアを拡大し、飲食サービスを充実させた。
- ・ピッピのおやつの新味の販売やピッピのぬいぐるみの作製、縁日の景品や売場等の見直しなど、既存施設の魅力を向上させる取り組みを行った。
- ・「コイのエサ」の自動販売機を設置することにより、コイのエサやりを楽しめるようにした。
- ・ホームページの他、インスタグラム、グーグルビジネスプロフィールなどの SNS を活用し、公園の情報を発信した。
- ・問い合わせや要望をいつでも受け付けられるように、ご意見箱やホームページに問い合わせフォームを設置した。
- ・利用者ニーズの把握と講座の充実を図るため適宜アンケート調査を実施した。
- ・受動喫煙防止の観点から喫煙場所をパンフレット等により周知し分煙化を進めた。

(3) 自然環境を保護・保全する管理運営

- ・都市緑化月間事業「とちぎグリーンフェスタ」を16日間開催した。「予感させる庭」をテーマにした花壇修景を施したほか、苗木の配布や自然体験プログラム、緑に関する講習会など、公園と緑に親しめるイベントを開催した。
- ・豊かな自然環境を活かし、昆虫・野鳥の観察会やネイチャーゲームなど特色ある体験プログラムを展開し、子ども達が楽しみながら自然に親しみ学べる機会を提供した。
- ・園内で発生した落ち葉を花壇・花畠の土壤改良材として有効活用した。また、伐採した枯損木は、チップにして園路、遊具の足場などに散布する他、希望者に無償で配布するなど、緑のリサイクルに取り組んだ。

(4) 地域活動拠点として地域とともに生きる公園づくり

- ・誰もが公園ボランティアに参加できるよう、令和4年度に発足した「わんぱく公園友の会」の様々な活動に対するサポート事業や積極的な活動のPRを継続して実施した。その結果、新たに4名のメンバーが加入した。
- ・夢花壇及び南口花壇は、緑化ボランティアとともに管理し、四季折々の草花で彩られた花壇修景を行った。
- ・「道の駅みぶ」連携事業の一環として、隣接するおもちゃ博物館、町総合公園、ハイウェーパークの利用促進に貢献するため、週末ごとに各施設入口付近に停留所を設けたわんぱくトレインを運行した。
- ・愛パークとちぎ事業を推進し、地域住民や企業等が継続的に環境美化に取り組めるよう支援した。

- ・公園花壇の一部を活用し、県民が花壇づくりから管理まで取り組める「私たちの花壇事業」を企画実施した。
- ・公園で収穫したリンゴをイベント参加者や来園者へ配布した。
- ・地元幼稚園・小学校等が出品する「かかしまつり」や、「道の駅みぶ連絡推進協議会」と連携した「わんぱくマルシェ」を開催した。
- ・地元中学校の職場体験や清掃ボランティア活動などを積極的に受け入れ、活動を支援した。
- ・壬生町や壬生町観光協会が主催の「花火大会」では、会場提供や環境整備を行うなど運営に協力した。
- ・壬生町が主催の「みぶの日フェア」では、会場提供などイベント実施に向けて様々な協力を行った。
- ・壬生町関係課、近隣幼稚園、小学校、自治会の代表者で構成する「とちぎわんぱく公園連絡協議会」を運営し、公園の事業について報告するとともに、意見交換や要望などを聴取した。
- ・壬生町社会福祉協議会が運営する障害者就労支援施設「むつみの森」で製造された商品を仕入れ、販売を支援した。
- ・地元の小学校に出張し、プランターの花植え授業を実施した。（3校、122名参加）
- ・とちぎグリーンフェスタでは、地域の活動拠点として、緑化団体が運営する講習会や手作り作家が集う「ぐりーんぐりーんまるしぇ」などを開催した。
- ・音楽演奏やダンスなどの活動発表の場として、園内のステージが利用できる「みんなのステージ」事業を実施した。

（5）効率的・安定性のある管理運営

- ・P D C Aサイクルに基づき事業の計画・実行・点検評価・改善につなげ、安定性のあるパークマネジメントを実践することで、管理レベルや提供サービスの水準等を効果的かつ効率的に継続して向上させた。
- ・遊具は日常点検、月1回の定期点検、年1回の専門業者による総合点検を行い、遊具の設置状態を把握するとともに適切な措置を講じ、一層の安全性の確保と事故防止に取り組んだ。
- ・維持管理業務等に係る安全講習会の受講や衛生管理者・危険物取扱者等の公園の管理運営に必要な資格取得を奨励するなど、スタッフ能力のレベル向上を図った。
- ・質の高いサービスを継続して提供するため、公園管理に必要な知識、経験、技術等を有したスタッフを配置するとともに、類似施設の視察や観光セミナー等の各種研修受講など、情報収集も積極的に行なった。

（6）施設利用提供の実施計画

- ・ふしげの船、こどもの城、ばなばなのまちなどの施設は、繁忙期は休業日を設けずに営業した。

5 利用者意見への対応

利用者意見の把握方法

- ・管理事務所に意見箱を常時設置し、ご意見票を回収

回収件数 162件

主なご意見票の項目	良い	良い方	あまり良くない	悪い
公園内はきれいでしたか	53. 2%	39. 0%	5. 2%	2. 6%
公園の管理状況はいかがでしたか	48. 6%	44. 6%	6. 1%	0. 7%
花壇や樹木などの植物の管理状態はいかがでしたか	65. 2%	28. 8%	3. 8%	2. 3%
スタッフの対応はいかがでしたか	66. 1%	33. 1%	0. 8%	0. 0%

- ・ホームページで意見を受付
- ・ボランティア団体意見交換会を開催し、意見・要望を聞き取り
- ・とちぎわんぱく公園連絡協議会を開催し、意見・要望を聞き取り

主な利用者意見（苦情・要望）	対応
<ul style="list-style-type: none"> ・園内地図に花情報を入れて欲しい。セントーレア(ボピー)の咲いている場所が花の絵だけではわかりにくい。何月頃、どんな花が咲くのか夢花壇の情報もほしい。 ・ふしぎの船内にある「水玉のふしぎ」の仕組みがまったくわかりません。解説してほしいです。HPに公開してください。 	<p>・花MAPやカレンダーを作成・掲示する等改善を図っていきたいと思います。</p> <p>また、セントーレアにつきましては園内に案内看板を設置させていただきました。</p> <p>「水玉のふしぎ」も含め、ふしぎ体験が出来る船内核施設の開設パンフレットをホームページトップ→施設案内→ふしぎの船ページ内に掲載いたしました。</p>
主な利用者意見（積極的評価）	
<ul style="list-style-type: none"> ・チューリップを観にきました。いろいろたくさんの種類があつてきれいでした。何度も来ているが滝に水が流れているのは初見だった。 ・いつもきれいなお花にいやされています。キッズコーナーも広くて安心です。紅葉もたのしみにしています。 	

6 指定管理者による自己評価

成果のあった取組・積極的に取り組んだ事項・利用者満足度向上への取組
<ul style="list-style-type: none"> ・SNS やプレスリリースなど積極的な広報活動や「大恐竜パーク」などの新規の利用促進策を展開した結果、利用者数を過去最高となる 101 万人台に伸ばすことができた。 ・公園のシンボルである「夢花壇」は、季節を問わず約 60 種類、約 1 万株の様々な草花を観賞できるようにしたところ、フォトスポットや散歩コースとしての利用が増え、このエリアに前年より約 4,000 人(10%増)多く訪れるようになった。 ・報道機関等に対してイベントや見頃の花などの情報を積極的に提供した。また、インスタグラムやグーグルビジネスプロフィールなどでも配信をこまめに行つた結果、新聞・テレビ・雑誌などへの放送、掲載が年間で約 60 件あった。(前年度約 50 件) ・地域イベントや首都圏でのイベント等において、ピッピの着ぐるみによるグリーティング活動を行い、幅広く公園の P R に取り組んだ。 ・公園で育てたリンゴを「かかしまつり」の参加者に配布するとともに、一般の公園利用者に向けた配布会も実施した。また、公園のオリジナルキャラクター「ピッピ」のグリーティングイベント、ヤギへのエサやり体験や誕生会など、当公園ならではの多彩なイベントを実施した。 ・公園管理運営士など公園管理運営技術に関する有資格者を配置し、質の高い管理運営に取り組んだ。 ・衛生管理者や危険物取扱者等、公園を管理する上で必要な資格の取得を奨励するなど、人材育成にも積極的に取り組んだ。 ・公園の魅力向上やより良い公園管理に繋げるため、類似施設を視察し、情報収集を行った。 ・災害発生時のマニュアルを整備し、来園者の避難誘導、非常時のエレベーター救出等の訓練を実施することにより安全確保に努めた。 ・巡回による安全確保と防犯を徹底した。 ・危険性が予想される箇所の把握、潜在的な危険を把握し、スタッフ全員に周知徹底した。 ・一括契約、一括購入により経費節減を図った。 ・朝礼時において、連絡、注意事項、丁寧な接客対応の徹底を図った。 ・管理作業マニュアルを活用し、管理作業に携わる全従業員に安全教育を行うとともに、夏場の熱中症対策として屋外作業従事者に保冷ベストを貸与した。 ・植栽管理等において、指定管理グループの造園組合が有する専門知識や組織力を活かし、大型機械や大人数による短期集中の一括管理を行い、作業の効率化を図った。 ・指定管理グループの民間構成員が得意とする企画力を活かして、大恐竜パークの運営やコラボ企画の実施、新規事業である「イシミック！」や「モモちゃんカフェ」の運営を行うことで公園の新たな魅力を生み出し、指定管理グループ全体で利用促進に取り組んだ。

地域との連携を推進し、地域活性化に向けた取組

※指定管理者が独自に設定

- ・壬生町主催の「みぶの日フェア」では当公園が会場に選ばれ、実施に際し様々な協力をを行うなど、町と一緒にして、周辺エリアの活性化に取り組んだ。
- ・道の駅みぶの構成施設として、みぶハイウェーパークやおもちゃ博物館と密な連携をとり、一体的な事業を推進した。（道の駅みぶのピンバッジ作成時の協力や道の駅みぶ全体の取材時の対応等）
- ・みぶハイウェーパークの協力を得ながら「わんぱくマルシェ」を開催して、壬生町の農作物のPRを行った。
- ・秋の「かかしまつり」では、地元幼稚園、保育園、児童クラブ、小学校、中学校に作品を出展していただき、リンゴの収穫を頼った。
- ・とちぎグリーンフェスタでは、花や緑に関心を持つきっかけづくりとして、地元の小学生による寄せ植えづくりを行い、わんぱく公園に飾って多くの来園者に見ていただいた。
- ・地域のおもちゃ保存団体によるおもちゃ関連イベントを実施し、壬生町のおもちゃ文化をPRとともに、子ども達が昔ながらのおもちゃと触れ合う機会を提供した。
- ・今も昔も幅広い年代に親しまれているおもちゃ「Nゲージ」の寄贈を、地域のおもちゃ保存団体より受け、壬生町の特色である「おもちゃ」で気軽に遊べるコーナーを子どもの城の出入口に設置した。
- ・地元の特産品であるかんぴょう（ふくべ）を使った雪だるまやシマエナガの置物、お雛様を作って飾り、かんぴょうが壬生町の特産品であることを紹介した。
- ・体験プログラムでは、県内で活躍する方々や団体に講師等でご協力いただいている。
- ・北関東フランワーパークリайн協議会の一員として積極的に協力し、ガーデンツーリズムの登録に貢献した。
- ・愛パークとちぎ事業や私たちの花壇事業を推進し、地域住民や企業等が継続的に環境美化に取り組めるよう支援した。

今後改善・工夫したい事項

- ・施設の老朽化が進み修繕箇所が増えているので、安全管理を考慮した上で県と連携・協議を進めながら予算の効率的な執行に努めていきたい。
- ・県内外の誘客及び地域活性化を図るために、道の駅みぶ構成施設や「北関東フランワーパークリайн協議会」等のネットワークを活かし、積極的に連携事業等を実施したい。
- ・常に魅力溢れる公園するために、公園利用者ニーズの把握や管理運営に関する情報収集に努めたい。
- ・老木化、高木化による公園利用者の事故防止のため、県と協議を図りながら樹木の適正な維持管理に努める他、倒木や枯損木の伐採が増えていくため、計画的に新たな苗木を植栽し、育成する必要がある。
- ・公園外周（町道2-560号線）の樹木は、高木化により枝が歩道・車道に伸び落枝や接触のリスクが高まっているので、剪定を実施し事故防止を図りたい。
- ・大恐竜パークでは、利用促進策を検討し、さらなる魅力向上を図りたい。
- ・昔ながらの遊びである「ザリガニ釣り」のイベントを企画し、気軽に自然や生き物と触れ合える機会を提供することで、来園者が自然や生き物に興味をもつきっかけになるとともに、新規利用者の開拓にもつなげたい。
- ・道の駅各施設の利用促進に貢献している、わんぱくトレインの老朽化が著しいため、更新に向けて準備を進めていきたい。
- ・パンフレットの内容を見直し、新施設である大恐竜パークの写真など話題性のある内容も盛り込み公園の魅力を更にPRしていきたい。
- ・引き続き事故・災害ゼロを目指し、栃木県や他公園から提供される情報の活用や、定期的な作業ミーティングなどに取り組み、常に安全で安心な公園を提供していきたい。
- ・令和7年度末に開園25周年を迎えることから、ピッピを活用した記念イベントを実施し多くの来園者と一緒に祝っていただくことで、公園への親しみや愛着を育みたい。

7 所管課室による評価

項目	評価の内容	確認内容・所見等	評価
1. 住民の平等利用の確保	① 住民の平等利用が確保されたか。	適切に実施されている。	B
	② 使用許可に関する権限が適正に行使されたか。	所定の手続きに則り、適切な許可が行われている。	B
	③ 高齢者、障害者等に対する配慮はなされたか。また、平等利用が確保できない場合の対応は適切か。	高齢者や身障者に対し配慮するなど事業計画書どおりされている。また、園内売店においては、障害者就労施設で製造される商品を仕入れ販売している。	B
2. 施設の効用の最大限発揮	① 施設の設置目的に沿った業務実施がなされたか。	事業計画に基づき、施設の設置目的に沿った業務が実施されている。	B
	② 施設の利用促進、県民サービスの向上が図られたか。	「大恐竜パーク」にて他施設とのコラボ企画や新規事業の立ち上げを行い、公園の新たな魅力と話題性の創出を図った。	B
	③ 利用者満足度を把握し、満足度の向上が図られたか。	利用者の満足度は昨年並みだった。	B
	④ 利用者からの意見、苦情に対して適切な対応がなされたか。	要望・苦情に対して、適切且つ迅速に取組み対応している。	B
	⑤ 施設、設備、備品の維持管理や安全管理は適切になされたか。	日常・定期点検を実施し、その記録が保管されているとともに、管理打合せ簿にて修繕の提案・修繕実施報告され、その修繕履歴が適切に保管されている。ただし、3月に待合席のパラソルによる事故が発生している。	C
	⑥ 指定管理者の創意工夫により業務改善等がなされたか。	SNS等で公園情報の発信をしたり、ピッピの目線で公園の魅力を投稿するなど閲覧者が楽しめる工夫を行った。また、園内などで着ぐるみピッピのグリーティング活動を実施して幅広いPR活動に取り組んだ。	B
3. 管理を安定的に行う物的的基礎	① 組織体制は適正か。	当該業務を概ね適切に遂行できる組織となっている。	B
	② 収支は適正でバランスがとれたものか。	概ね適正である。	B
	③ 経費の縮減に取り組まれてきたか。	事業計画書どおり多目的、多用途に従事するスタッフを配置し人件費を削減するとともに、保険契約等は一括契約を行い経費削減に取り組んでいる。	B
	④ 人材育成は適切に実施されているか。	公園管理に必要な資格の取得や技術と能力を向上するため、事業計画書に基づいた研修を実施した。	B
	⑤ 危機管理体制(事故、緊急時の対応)は確保されているか。	緊急時連絡体制により、関係部署との連絡体制は確保できている。また、事故・異常気象時の対応も適切に対応・報告がなされていた。ただし、安全管理が適切に行われず、利用者が被災する事故が発生した。	C

	⑥ 県や関係機関との連携体制は確保されているか。	県や関係機関と連携し、管理運営を行っている。	B
4. 個人情報保護	① 個人情報の保護についての措置が計画どおり実施されているか。	個人情報の保護に関する要領を定め、適切に保護している。	B
	② 情報公開は適切になされているか。	情報公開事務処理要領を定め、適切に運用している。	B
5. その他	① 施設の特性にふさわしい自己評価がなされているか。	適切な自己評価が行われた。	B
	② 自主事業が計画どおりに実施されているか。	自主事業について、適切に実施された。	B
	③ イベント等を実施している場合は、地域との連携が図られているか。	壬生町や道の駅みぶとの連携し、みぶの日フェアへの協力などを行った。	B
	④ 環境への配慮（騒音・光害対策、ごみ削減等）がなされているか。	公園利用者にはごみの持ち帰りをお願いするほか、枯枝や支障枝剪定後、自前でチップ化し植栽エリア等にまくなどゴミの縮減に努めた。	B
	⑤ その他管理運営上の特記事項	新型コロナウイルス感染症対策を図り安全な管理運営を実現した	B
総合的な評価			
<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度の利用者数は、前年度から約182千人増の1,017千人（過去最高）となった。 ・過年度からの積極的な広報活動や「大恐竜パーク」などの新規の利用促進策を展開した結果が結びついたものと考えられる。 ・引き続き様々な施策に取組むとともに、施設の安全管理も徹底することで、公園の魅力アップを図られたい。 			

※「評価」欄には、以下の指標により判定した結果を記載すること。

- A：事業計画に対して優れた取組となっている。
- B：事業計画どおりの取組となっている。
- C：事業計画に対して劣る取組となっている。
- D：事業計画に対して著しく劣る取組となっている。